

## 中国国際友好都市大会受賞式典への出席

2024年11月18日～19日にかけて、仲川げん奈良市長、森岡弘之奈良市議会議長を含む計4名による奈良市訪問団が、中国の昆明市で開かれた「中国国際友好都市大会」に参加しました。

今回の中国国際友好都市大会のテーマは「分かちあい、ともに未来を創る」。仲川市長は、「多様な価値観を互いに認め合い、安定的で持続可能な社会をアジアから共に創り出す為に、両国のルーツでもある我々の交流が一助となることを願ってやまない。」と語りました。

11月18日に行われたテーマフォーラムでは、「都市の歴史文化の保存と継承」について仲川市長が奈良市の取組を発表しました。

平城京をはじめとする世界遺産「古都奈良の文化財」について紹介するとともに、時代と共にさまざまな文化が融合しながら現在に受け継がれていることを説明しました。

11月19日の表彰式では、半世紀にわたるこれまでのさまざまな交流と両市の友好関係が評価され、奈良市が「中国友好都市優秀パートナー賞」を受賞しました。

両市は、これまでの交流の深さを改めて確認するとともに、これからの50年に向けた両市の友好関係をより一層深めていく意思を強めました。

[寄稿者:奈良市]



テーマフォーラムでの仲川市長の発表の様子



表彰式後の記念写真に応じる森岡議長(左)、仲川市長(中)、張西安市人民对外友好協会副会長(右)

フレンドシップス 第34号

二〇二五年三月三十一日発行

奈良市国際交流協会事務局

〒630-1858 奈良市二条大路南一丁目一番一号 奈良市役所  
TEL/FAX 0742-34-1965 E-mail:kankourenjyaku@city.nara.lg.jp

観光戦略課内

2025年3月  
(March)  
第34号

フレンドシップス

# FRIENDSHIPS



奈良市国際交流協会

## ご挨拶

奈良市国際交流協会名誉会長

奈良市長 仲川 げん



麗春の候、会員の皆様におかれましては、ますますご清祥のこととお慶び申し上げます。平素は、奈良市の国際交流事業にご理解とご協力を賜り、厚く御礼申し上げます。

さて、昨年は私たち奈良市にとって特別な年となりました。中国西安市との友好都市提携50周年を記念して青少年交流を実施しました。そして、この半世紀にわたる両市の交流と友好関係が評価され、「中国友好都市優秀パートナー賞」を受賞する栄誉に浴しました。この受賞は、私たちの努力が実を結んだ証であり、今後も両市の交流をさらに進めていく決意を新たにしています。

さらに昨年は、ウズベキスタンのサマルカンド市との交流も活発に行われました。そして現在、私たちは、「奈良・サマルカンド特別交流展(仮称)」の2027年開催実現に向けて活動しています。先日行ったクラウドファンディングでは、多くの市民の皆様から温かいご支援をいただき、この特別交流展の実現を望んでいることを実感いたしました。両市の文化や歴史を相互に紹介し、さらなる友好関係を築くための重要な機会とすべく、全力でこのプロジェクトを推進してまいります。

そして今年は、韓国慶州市との姉妹都市提携が55周年、中国揚州市との友好都市提携が15周年を迎えます。この歴史的な節目を迎えるにあたり、私たちはこれまでの交流の成果を振り返るとともに、未来に向けた新たな交流の形を模索していきたいと考えています。特に、将来の交流の担い役である青少年の交流を重視し、次世代の国際理解を深めるための取り組みを進めてまいります。青少年が異文化に触れ、理解を深めることは、開かれた社会と平和な世界の構築のための重要な基盤になると信じています。

国際交流は、文化や情報の交換だけでなく、人と人の絆を深める大切な活動です。奈良市と奈良市国際交流協会は、地域の皆様と共に手を携えながら、国際的な視野を持った市民の育成に努めてまいります。これからも多様な国々との交流を通じて、奈良市が国際的な舞台で輝く存在となるよう努力していきます。

最後になりますが、皆様には引き続きご関心とご協力を賜りますようお願い申し上げます。共に未来を見据え、国際交流の輪を広げていきましょう。

## 奈良市国際交流協会会員の皆さまへ

奈良市国際交流協会

会長 河野 良文



若草も萌えて野も山もすっかり春の装いになりました。会員の皆様におかれましては、いかがお過ごしでしょうか。

奈良は、古都としての歴史と文化が息づく魅力的なまちです。世界中から多くの観光客が訪れ、また多様な国の方々がこの地に暮らしています。私たち奈良市国際交流協会は、このような国際的な環境の中で、国際交流を担う団体として、地域の発展に寄与することを目指しています。

さて、昨年度は、自主事業「奈良市国際交流出前講座」を10校で実施し、多くの成果を上げることができました。講座を通じて、奈良の子どもたちは外国の文化を理解し、外の世界に目を向ける貴重な機会を得ました。この事業は、今年5年目を迎えますが、さらなる充実を図りつつ、これからも継続していきたいと思っております。子どもたちが異文化に触れることで、日本と世界のことを同時に考え行動する国際人として成長することを期待しています。

また、今年度は、さらに一歩進んだ取り組みとして、奈良に住む外国の方たちに対して奈良の歴史文化を伝える事業を実施する予定です。すでに当協会の団体会員の皆様におかれましては、それぞれの視点から奈良の魅力を伝える様々な活動を展開してくださっています。このような活動を通じて、外国の方々が奈良の文化や伝統を理解し、地域社会に溶け込んでいただけるようサポートを行うことが、共生社会の実現に向けた一歩になるでしょう。昨年はさらに団体会員が増えました。当協会と会員の皆様の活動が、国際交流の場を創出し、地域の活性化をさらに推進するものと信じています。

奈良は、歴史的な遺産や美しい自然に恵まれた地域であり、その魅力は国内外問わず多くの人々に愛されています。しかし、その魅力を伝えるためには、私たち自身が積極的に行動し、情報発信を行う必要があります。奈良市国際交流協会としても、今後ますます多様なイベントやプログラムを企画し、地域住民と外国人との交流の場を提供していきたいと考えています。

最後に、私たち奈良市国際交流協会は、「共生」をキーワードに、会員の皆様や地域の皆様と共に歩みながら、奈良と世界の懸け橋となるべく、国際交流の一翼を担ってまいります。今後とも会員の皆様のご理解とご協力を賜りますよう、どうぞよろしくお願い申し上げます。

## カウラ事件80周年記念式典訪問事業

日時：2024年8月2日(金)～8日(木) 場所：オーストラリア シドニー市・カウラ市・リズモア市

先の第二次世界大戦では、オーストラリアのカウラ捕虜収容所にて、1,000名を超える日本人捕虜集団大脱走事件が発生し、日本兵231名・オーストラリア兵4名が犠牲となりました。事件から80年、また、日豪両国の架け橋となられたトニ・グリーン神父の没後30年にあたる本年、西大寺執事長の辻村泰範師を団長として訪問団を結成しました。

シドニー・ハンターズヒルのマリスト会本部ではトニ・グリーン神父の墓地を参拝しました。

カウラでは、平和の梵鐘の打鐘式、日本庭園から捕虜収容所跡にかけてのランタンパレード・セレモニーに出席しました。跡地の草原ではまつぼっくりファミリー合唱団有志と現地の生徒が歌声を響かせました。

5日は、未明の事件発生時間に合わせたの記念式典に有志が参加。午前中には日豪両国の兵士を悼む慰霊法要が執り行われ、南都七大寺から託された線香を手分けしてお供えしました。

7日にトニ・グリーン神父生誕の地・リズモアへ移動。グリーン神父ゆかりのサザンクロス大学を訪問しました。荒井敦子さん達が日本の歌を披露しました。

カウラ市民による日本人墓地の丁寧な管理を目の当たりにし、改めて日豪の友好関係が益々発展するよう心から祈念する、かけがえのない訪問事業となりました。

「寄稿者：カウラ事件80周年記念式典訪問団 事務局」



日本人戦没者に手向けられた献花と平和を祈る折鶴



日本庭園から捕虜収容所跡にかけてのランタンパレード・セレモニー

## 第42回 全日本中国語スピーチコンテスト奈良県大会

日時：10月27日(日) 場所：奈良市中部公民館

本年は昨年同様19名の参加で出場者は日頃の練習の成果を、思う存分発揮されました。

今回は特に高校生の活躍が目立ち、発音、イントネーション含め、よく練習されているとの審査員の講評でした。朗読部門では大学生一名(天理大学)、スピーチ部門で高校生一名(奈良県立国際高校)が本選への推薦を受けました。来年1月の本選では是非頑張ってくださいと思います。

また審査中の時間を活用して、本年は2024年日中友好大学生訪中団第二陣に参加された、天理大学の田中喜心さん、吉田頼親さんお二人から、訪中のご報告をして頂きました。上海、成都、北京を訪中され、それぞれ「中国を知る」を体現されたお二人、後輩にあたる高校生参加者にも大きな刺激になるお話でした。これからの日中友好のあり方を教えてくれた気がします。



訪中団報告



表彰式



表彰式後の記念撮影

## NaFu!国際交流Oneday Camp 2024

日時: 2024年10月27日(日) 場所: 奈良市中部公民館、奈良公園

当会の活動「青少年の夢支援」の一環として実施している「NaFu!国際交流Oneday Camp」は、青少年の豊かな人生とグローバルな視野を育むことを目的としています。

今年で21回目を迎えた「NaFu!国際交流Oneday Camp2024」には、アメリカ、台湾、中国、オーストラリアから12名、日本から23名が参加し、奈良公園周辺や奈良市中部公民館を拠点に、4つのグループに分かれて多くのイベントを通して国際交流を楽しみました。

また今年には新たな試みとして、若い世代がリーダーとして企画・進行を担当し、新鮮なプログラムのもと、外国人と日本人が心温まる交流を深めることが出来ました。

特定非営利活動法人 国際交流ならふれあいの会 野原純子



奈良公園でのフィールドワーク



中部公民館でのアクティビティ

## NaFu!国際チャリティーコンサート2024

日時: 2024年11月3日(日) 場所: 奈良公園バスターミナルレクチャーホール

世界には多くの困難を抱えた人々が多くおられますが、NaFu!では、交流や支援の機会を創出し、助け合いと慈愛の心を育む活動を続けています。

11月3日には、レクチャーホールにてチャリティーコンサートを開催しました。ハーブ、フルート、バイオリンの演奏に加え、ソプラノ歌手・吉岡節さんをお迎えしたコンサートは大変盛り上がりしました。また、奈良県の視覚障害者の皆さまをご招待し、喜びのお声を多くいただきました。このように奈良で和やかなコンサートを開催できたのは、皆さまの国際性と深いご理解のおかげです。外国人留学生や交流団体をはじめ、多くの皆さまに御礼申し上げます。

今後もこの活動を通じて、奈良を発信拠点とし、国際理解を深め、支援の輪を広げて参ります。

特定非営利活動法人 国際交流ならふれあいの会 野原純子



楽器演奏と歌のコラボレーション



ソプラノ歌手・吉岡節さん



ハーブ、フルート、バイオリンの演奏

## 日本・インドネシア友好秋の集い

日時: 2024年11月10日(日) 場所: 柳生町

この集いは、当友好協会が毎年実施している2大事業の中の一つの行事です。今回の集いの目的の一つは、江戸時代の有名な剣豪であった柳生十兵衛ゆかりの地である奈良市柳生町を訪問し、「武士道や侍文化について正しく理解をしよう」というものでした。貸し切りバスを利用しての実施でした。参加者は24名(日本人10名、インドネシア留学生14名)でした。

インドネシア語、英語、日本語が入り混じった会話が飛び交い盛り上がった場面も見られました。また、当友好協会の行事では毎回「インドネシアの歌を共に歌おう」が恒例になっていて、今回も岩本会員のハーモニカ演奏で交流が一層深まりました。参加したインドネシアの留学生達からは、「勉強になった」「大変楽しむことが出来た」との感想が寄せられました。

今回についても、奈良市国際交流協会からの支援をいただきました。今後も引き続きサポートをお願いすると共に、当友好協会としても、更なる両国の友好親善に向け、一層充実した活動を目指し前進して行く決意を新たにしております。

寄稿者: 日本インドネシア友好協会奈良会長 小谷勝彦



移動は貸切バスで



昼食風景



参加者全員で記念撮影

## ナラ・ファミリー&フレンド 秋の課外授業

日時:2024年11月10日(日) 場所:桜井市 森岡果樹園

秋の課外授業としてミカン狩りを催しました。この活動は、日本語学習者が日本文化に触れ、語学学習を実践的に深める貴重な機会となりました。

普段の授業終了後、参加者全員がJR奈良駅に集合し、JR巻向駅へ電車で移動しました。日本の電車を初めて利用する参加者もあり、スタッフが乗車マナーについて説明し、移動中には「電車に乗ります」「電車で行きます」「電車を降ります」などの助詞の使い分けを学び、語学学習としても有意義でした。

駅に到着後、徒歩で現地へ。日本最古の街道「山辺の道」で、秋の風景を楽しみながら、相撲神社や纏向古墳など、スタッフが説明しました。

現地では、各自持参したお弁当を囲んで昼食をとり、各国のお弁当文化について話し合い、交流の場をさらに広げました。その後、農園の方からミカン狩りの説明を受け、初めてのミカン狩りに挑戦しました。ほとんどの人が初体験で、たくさんなっているみかんを食べ、おいしい木はここだとメンバー間で教えあっていました。教室以外での活動は、心がオープンになりやすく、グループ内の相互理解を深める貴重な機会を提供できました。

寄稿者:ナラ・ファミリー&フレンド会長 アダルシュ・シャルマ



お母さんと一緒に参加したスリランカの女の子



食事風景



参加者全員で記念撮影

## トスティ歌曲国際コンクール2024イタリア本選大会

日時:2024年12月1日 場所:イタリア・オルトーナ市

「日本トスティ歌曲コンクール2023イタリア予選大会」(2023年10月7-9日秋篠音楽堂にて開催)の優勝者の森翔梧(もりしょうご)氏が、日本代表として、2024年12月1日にイタリア・オルトーナ市のトスティ劇場で開催された「トスティ歌曲国際コンクール2024イタリア本選大会」に参加、3位に入賞しました。

コンクールに出場するため世界中から集まった優秀な歌手たちの中で、森氏の堂々とした素晴らしい歌が終わると、会場は大きな拍手に包まれました。

日本トスティ協会は、音楽を通して、さらに奈良とイタリアとの文化交流の架け橋となることを祈念し、「日伊文化交流 日本トスティ協会賞」を、1位入賞者のイタリア人ソプラノ歌手Alessia Panza(アレッシア・パンツァ)氏に授与しました。

今年(2025年)の8月には、奈良・東京でのコンサートにアレッシア・パンツァ氏の出演を予定しています。

1996年から、およそ30年間にわたり、奈良とイタリアの友好を育んできた日本トスティ協会は、トスティ歌曲を軸とした音楽・文化国際交流を、今後も、皆様のご支援のもと継続してまいります。

寄稿者:日本トスティ歌曲コンクール実行委員長 吉川朋子



歌唱する森翔梧氏(バリトン)



3位入賞し、賞状を受け取る森翔梧氏



優勝したアレッシア・パンツァ氏



「日伊文化交流日本トスティ協会賞」を受賞したアレッシア氏(右)と吉川朋子日本トスティコンクール実行委員長(左)

## 奈良市・サマルカンド市姉妹都市提携1周年記念イベント

日時：2024年4月22日 場所：奈良商工会議所 / 23日 場所：生涯学習センター

奈良市とサマルカンド市が2022年10月18日に姉妹都市提携を結び、1周年を迎えたことを記念し、駐日ウズベキスタン共和国大使館との共催のもと、2024年4月22日に奈良商工会議所で『ウズベキスタン観光経済セミナー』（奈良商工会議所後援）を開催し、翌23日には奈良市生涯学習センターで『ウズベキスタン料理教室』（奈良女子大学協力）を開催しました。

同大使館員による『ウズベキスタン観光経済セミナー』では、前半の観光パートで、秋の紅葉や冬のスキーといった四季折々の同国の旅の楽しみ方や同国が「生きている間に訪れるべき世界都市トップ10」に選ばれたことなど様々な観点から観光地としての同国の魅力紹介が行われました。後半の経済パートでは、同国が中央アジア諸国で最も人口が多く、若い労働力に溢れ、経済成長がプラスで推移し、資源に恵まれ、欧米や日本の企業進出が進んでいる状況などについて紹介が行われました。また、サマルカンドの世界遺産であるレギスタン広場からのオンライン中継やウズベキスタン工芸品の展示も行い、参加者にとってウズベキスタンを身近に感じていただける機会となりました。

『ウズベキスタン料理教室』では、大使館公邸料理人の指導のもと、同国代表料理『プロフ』と『トマトと玉ねぎのサラダ』を作りました。『プロフ』作りでは羊肉やひよこ豆、レーズン、クミン、ウズベキスタン米、ヒマワリ油といった本場の材料を使用して2時間かけて調理し、『プロフ』完成時には部屋全体がクミンの香りに包まれ、現地を彷彿とさせるようなシルクロード薫る空間となっていました。作る工程は参加者にとって驚きの連続であったようで、大変印象深い料理教室になったとの感想が聞かれました。その他、料理を通じて同国への関心が高まり、もっと知りたくなったという感想も聞かれました。

サマルカンド、ウズベキスタンについてより多くの方々に知っていただける機会をこれからも創出して参ります。

【寄稿者：奈良市】



『ウズベキスタン観光経済セミナー』会場での展示の様子



『ウズベキスタン観光経済セミナー』の様子



『ウズベキスタン料理教室』で公邸料理人が羊肉の切り方を教える様子



完成した「プロフ」

## 奈良市・西安市友好都市提携50周年記念 令和6年度 西安市訪問プログラム

期間：2024年9月8日～12日 場所：中国西安市

2024年9月8日～12日にかけて、奈良市在住・在学の若者8名からなる奈良市訪問団が、友好都市提携50周年を迎えた西安市を訪問しました。

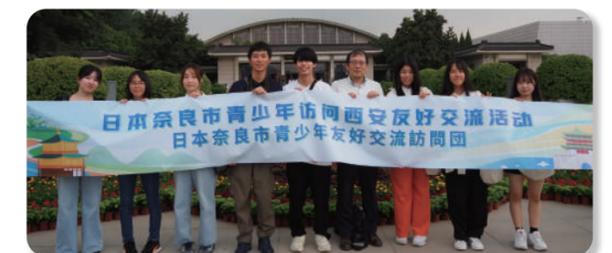
60名もの応募があった中から選ばれた8名は皆初めての訪中。期待に胸を膨らませた一行の旅路は、歓迎の夕食会から始まります。代表の学生がしっかりと挨拶をする姿は大変頼もしく感じられました。

到着した翌日は西安外事学院を訪問し、琴や太極拳、中国茶といった中国の文化を体験しました。付属高校の学生には日本語が流暢な方も多く、積極的にコミュニケーションをとることができて満足そうでした。午後は兵馬俑を見学。その壮大な規模に一行は圧倒されていました。次に西安城壁の上でサイクリングを楽しんだ後、夜は大唐不夜城という巨大な夜市を見学しました。

次の日は西安外国語学校を訪問。ここで学生は奈良の観光、学生の日といった発表の後、2人ずつグループに分かれて、4～5人の中国人学生と会話。アニメを見て日本への関心が高まった方も多く、改めてその影響力を感じました。昼からは先端技術を研究する交差情報研究院を見学。ハイテクに力を注ぐ中国に改めて驚きを感じていました。ここで体調不良者が複数出たため、見学は中止。翌日以降も安静に過ごしていました。

ハプニングに見舞われながらも、中国にますます興味が湧いたと語った学生の皆さん。今後は彼らが奈良市と西安市の友好関係を深めてくれることを期待しています。

【寄稿者：奈良市】



西安空港について記念撮影する訪問団



学校訪問での交流の様子



太極拳を体験



大唐不夜城(夜市)



日本の高校生の1日を紹介